『新装改訂版 現代数理統計学』

(竹村彰通 著, 学術図書出版社)

正誤表 第1版第8刷用

頁	場所	修正前	修正後
69	下9行目	(3.19) 式より	(3.24) 式より
204	下9行目	有意水準 $1 - \alpha$ の受容域	有意水準 α の受容域
206	7行目	未知の母数 θ を含む確率 (coverage probability)	未知の母数 θ を含む確率 (被覆確率, coverage probability)
213	下6行目	有意水準 $1 - \alpha$ の受容域	有意水準 α の受容域
230	9行目	<p>$p_2 - p_1$ の信頼区間としては以下の2標本問題の検定方式を変形して</p> $\hat{p}_2 - \hat{p}_1 \pm z_{\alpha/2} \sqrt{\left(\frac{1}{m} + \frac{1}{n}\right) \tilde{p}(1 - \tilde{p})}$ <p style="text-align: right;">(10.81)</p> <p>とおけばよい. ここで $\tilde{p}$ は以下の(10.89)式で定義される“プールされた推定量”である.</p>	<p>$p_2 - p_1$ の区間推定は難しい. これは, $H_0 : p_2 - p_1 = \theta_0$ の検定が攪乱母数 (p_1) に依存し, 9.2節で説明した信頼区間の構成が難しいためである. 簡便法としては</p> $\hat{p}_2 - \hat{p}_1 \pm z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{1}{m} \hat{p}_1(1 - \hat{p}_1) + \frac{1}{n} \hat{p}_2(1 - \hat{p}_2)}$ <p style="text-align: right;">(10.81)</p> <p>を用いればよいが, 実際の被覆確率が $1 - \alpha$ より小さくなる傾向が多く文献で指摘されている. この点についての議論や対処法については, 例えば Agresti and Caffo(2000) が参考になる.</p>
342	末尾		<p>以下を追加してください.</p> <p>また以下の論文を参照した.</p> <p>Agresti, A. and Caffo, B., (2000), Simple and effective confidence intervals for proportions and differences of proportions result from adding two successes and two failures, <i>The American Statistician</i>, 54, 280–288.</p>